

かのととくり道
ゆかりの埋蔵文化財

①仲田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）



水田に残された土器

コラム
Column

土屋敷置と忠臣蔵



土屋敷置は元久以前の忠義の五男として生れました。金丸氏は現在南アルプス市轄永井である長瀬院の地に船を置き、その周辺を守るために武田の兵を置き、その子となり、土屋敷を名むことになりました。

余談ですが、後世武田二十四将に選ばれた忠蔵の父も土屋右衛門尉昌三と、「土屋」を名しました。昌三は信玄が昌島の働きぶりを賞えて選んだ姓です。そもそもは武田家に代々仕えながら断絶してしまったい名士土屋氏のものです。

忠蔵は、信玄の病没後、その家業を継いで武田領の側近となりました。

一時は美作、駿河、信濃などを治め、数万の軍勢を誇った武田軍ですが、勝敗の田舎の間に追われた時、勝頼に従った人は忠蔵をはじめわずか十人だったとも言われています。

天文10年3月11日、武田家滅ぼしの日、忠蔵は勝頼親子が賊する時間を見極めて、崖の狭い道筋に立ち、片手に刀を持って槍を突き飛ばす敵の軍を防ぐなど伝わっています。これが「土屋敷置片手千人斬」の説話です。

武田軍が敗北した後、忠蔵は生き残らず、次に土屋町から離反していく家臣の内に、金丸一郎一は忠蔵を殺め、四男、七男ち天目で討ち取られました。忠蔵まで忠蔵を守り抜いた忠蔵の姿は、武田家滅ぼしの忠臣として今も語り継がれています。

ちなみに、忠蔵の墓場は鶴川家屋に見いだされ、後に上総久留里藩2万石の主となっていました。さらにその子孫二人が忠田と深く関わっています。一人は老中となつた豊臣秀吉で、浅野内匠頭を立派となりました。もう一人は徳川吉良邸の寮に住んでいた土屋主税で、討ち入りを見逃すだけなく、高拠点を構え赤穂浪士を助けたと伝えられています。

明治25年長瀬院境内図
平成21年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会 文化財課

☎055-282-7269

かのととくり道
ゆかりの埋蔵文化財

②石橋北屋敷遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）



裏（中世）北枕にしている。
かたわらには六道鏡が供えられていた。

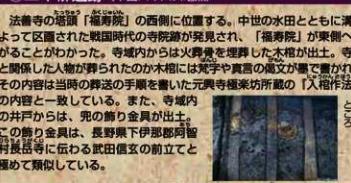
戦国時代の土器

③野牛山・大塚遺跡第2地点（現市道八田163号線）



口元に置かれた
六道鏡

④二本柳遺跡（甲西バイパス地点）



木棺

兜の飾り金具



木棺

兜の飾り金具

⑤二本柳遺跡（現農道）

「法善寺境内図」によれば、近世の法善寺の周囲には20を超える塔頭があり、壮大な規模を誇っていた。発掘調査の範囲は、その中でも一際大きい塔頭である「福寿院」の一部。調査では、戦国時代の土器や卒塔婆などの木製品、五輪塔、石臼などが発見された。土器の中には僧侶の名前と思われる文字が墨書きされたものもある。



法善寺境内図

戦国時代の土器

⑥椿城跡（農地）

地中レーダー調査をした結果、堀や土塁、いくつもの地下式坑の存在が確認された。現在も地中に中世の城の姿が残されていることがわかった。



椿城跡図

⑦村北第二遺跡



出土した壺と六道鏡
(上段2号土坑蓋、下段1号土坑蓋)

1号土坑蓋出土土器

1号土坑蓋



かのととくり道
ゆかりの埋蔵文化財

戦国時代の
史跡を歩く

かのととくり道
ゆかりの埋蔵文化財

そうそくくん

vol.4

戦国時代の史跡を歩く

